

合同研修会

『ご利用者の生活の質の向上を目指して』

～「意識の大切さ」を学ぶ～

今回の研修会は、
鴻池会の院内研究発
表のテーマです！

参加者
11名

「サービス提供の（支援）プロセス」

- 1, インテーク
- 2, アセスメント
- 3, ケアプランに基づく、サービス計画書
- 4, サービス提供の実施
- 5, モニタリング → 再アセスメント

ご利用者とかかわる上で大切な「自立した生活」「生活の質の向上」を目指して支援するために、ICF（国際生活機能分類）を知り、「利用者の生きることの全体をみる」という視点を学ぶことができました。個人の価値観や思い込みで支援することが、自立の障害になる可能性があるということがどういうことなのか？みんなで、振り返ることができました。

レポート

- ご利用者の情報を共有する重要性を知り職員間でのコミュニケーションが大切だとあらためて気づかされた。
- 複数名訪問するヘルパーの価値観に違いがあるので、目標を共有し支援する事が必要だと思った。
- 一生懸命支援していたつもりでしたが自立支援に対して意識が薄くなっていた事に気づきました。



今回は院内研究発表の為情報収集も含めた研修会でした。自立した生活を目指すご利用者の目標共有する事の必要性や支援するヘルパーの価値観や思いこみで支援をする事の危険性も勉強したので個々に気をつけて行きたいと思います。